

伝え合う力の育成

ーテレビ会議システム活用を通してー

高知県津野町立葉山小学校 教諭 坂本益英
masuhide_sakamoto@kt3.kochinet.ed.jp

キーワード：小学校、国語、学校間交流、伝え合う力、テレビ会議

1. はじめに

本校は、高知県中西部の山間に位置し、児童数126名の規模である。ここ数年「生き生きと学び、ともに高まり合おうとする児童の育成」を校内研究の主題に掲げ、教科研究と特別活動の両面から取り組みを進めている。校内研究の成果として、課題を発見・追究する力の育成には一定の成果が得られた。しかし、自ら既習の学習を応用し、ともに高まり合おうとする学習集団の育成は十分でないという反省も出てきた。そこで、昨年度からはサブテーマとして「表現力を育てる」を掲げ、自分の考えや思いを互いに伝え合い、高まりあえる学習集団を育成する研究を進めてきた。

国語科においては、「伝え合う力の育成」を意識し、授業改善の手だてとしてテレビ会議システム（高知県教育ネット上で活用できる MeetingTable 写真1）を活用した。また、「書く」「話す」「聞く」力を多面的に育成するため、各教科でのノート指導（教科日記）や地域に開かれた学校づくりをテーマとした特別活動とも合わせて研究を深めた。



写真1 テレビ会議の画面

2. 実践の概要

（1）国語科でのテレビ会議システム活用

国語科の年間カリキュラムの中で、テレビ会議システムを活用することで授業改善が期待できる単元を抽出した。しかし、昨年度からの実践であり、全校一斉に活用することはできなかった。

5年生	単元名「いろいろな環境問題について調べよう『森林のおくりもの』」 葉山小学校を主会場、津野町内の白石小学校を副会場とし、ゲストティーチャーから森林を守る仕事についての説明を聞いた後、質問・意見を交流した。
6年生	単元名「気持ちのよい話し方をしよう」 校内でテレビ会議システムを活用し、課題に応じて相手の状況や伝える内容に気を配り、その場に応じた言葉遣いを考えて会話をを行った。 単元名「役割に応じた話し方を工夫してニュース番組を作ろう」 ニュース番組の構成を考え、役割に応じた話し方を工夫して話したり、話し手の工夫に注意しながら聞いた。伝わりやすさを考えながら練習する際に、校内でテレビ会議システムを活用し、言葉遣いやフリップの書き方を工夫した。高岡郡内の越知小学校とテレビ会議システムを活用したニュース番組の発表会を開き、感想を伝え合った。

（2）テレビ会議システムを効果的に活用する

テレビ会議システムの長所短所を生かすことで、単元の目標に迫り「伝え合う力の育成」を図ることができた。

画像情報を伝えることができる長所を生かし、挙手や色カード、フリップなどを使った情報伝達手段を児童に提示し、工夫して意図を伝えることができるようになった。逆に、相手から見られていることを意識し始めると、相手の意見に応じて大きくうなづいたり、拍手できるようになった。また、音声聞き取りにくい短所もあるが、相手に伝わりやすい話し方を工夫するようになり、考えた事や自分の意図が分かるように、簡潔な言葉で発表できるようになった。聞き手としても、聞こえなかった部分を聞き返したり、会話の流れから話し手の意図をくみ取ることで、会話を続けることができるようになった。

授業計画を作成するに当たって、国語科でのテレビ会議の前に総合的な学習の時間での交流テレビ会議を行った。テレビ会議に児童・指導者ともに慣れ、テレビ会議システムの長所短所をいかして教科の目標に迫るため必要であった。

写真2は、プロジェクタのスクリーン側から見たテレビ会議の様子である。USBカメラをカメラの三脚に取り



写真2 テレビ会議の様子

付けて使うことで、機器の操作をしないで画面の構図だけを意識し児童がカメラの操作を行うことができた。また、発表する児童はカメラの前に進み出ないと大きく写らないので、自分から進み出ることによって発表者としての意識を持つことができた。フリップは、紙をラミネートしたものを使いホワイトボード用のペンで書き込んでいる。校内でテレビ会議システムに映し出して発表練習をしながら、画面への写り方を見て文字の大きさや文字数を工夫することができた。また、フリップは譜面台に乗せている。

3. 実践を広める

(1) 校内研究

昨年度は、全校研究の場で授業公開をすることはできなかったが、ビデオを使ってテレビ会議の様子を視聴することができた。その際、学級内でほとんど言葉を発することのなかった児童が、相手校の呼びかけに応じてマイクを持ち発言した事例の発表があった。

本年度は、「気持ちのよい話し方をしよう」の全校研究を行うことができた。テレビ会議システムを活用することが授業改善につながることで、児童の授業への意欲が高まること、テレビ会議システムを使うことが効果的な教材を絞る必要があることを話し合った。しかし、授業で活用する時間がない、操作が難しそう、不具合に対応できない、相手がいないといった理由から、すべての学年でテレビ会議システムを活用した授業改善に取り組むには至っていない。

(2) 他校との交流

昨年度テレビ会議を行った白石小学校とは、本年度も続けて交流を行うことができた。しかし、交流を続けることができなかった学校もあり、テレビ会議の有効性は互いに理解していても、多忙な中で日程の調整がつかない現実がある。

こうした中で、高知県教育センターの主催する「高知県学校間交流推進事業」ワーキンググループに参加することで、テレビ会議システムの効果的な活用方法について研修することができた。USBカメラの活用、提示物を譜面台に乗せること、交流テレビ会議を繰り返すことが有効であること等は、この研修で学んだことである。また同時に、グループ内でテレビ会議の相手校を見つけることも、ワーキンググループで行っている。「ニュース番組」の発表会は、1学期に行われたワーキンググループの際に計画し、運動会や陸上記録会などの合間に計画から大幅に遅れながらも実践することができた。

4. 成果と課題

伝え合う力を育成するために、授業改善の手だてとしてテレビ会議システムを活用する事は有効であると考え。校内でテレビ会議システムを活用することで、伝える側と受け取る側を何度も経験することができた。さらに、画面をプロジェクトで拡大し、音声をスピーカーから出すことで、授業の課題となる部分を児童全員に意識させることができた。こうした授業改善により、教科の目標に迫り、相手を意識して話し聞くこと、伝えたい事柄を整理して原稿を書くことができた。

昨年度の校内研究の課題として、練習を積んだ内容については堂々と発表できるが、その場で自分の考えを表現する場面では消極的になる子どもが多いことが指摘されていた。テレビ会議では、その場で自分の考えを表現しなければならない場面がよくある。マイクを握ったまま黙ってしまうこともあるが、相手が他校であり待たせてはいけないという意識が働くので、即応できる力が付いてきた。また、考えがまとまらない場合には、「少し待ってください。」「他の友達の意見も聞いてみます。」といった対応ができるようになった。

しかし、事前に児童・指導者ともにテレビ会議システムの活用慣れておくことが必要である。まずは、交流テレビ会議から取り組み、テレビ会議システムの長所短所を体験した上で、教科の目標に迫る手だてとしてテレビ会議を活用することが有効である。

また、交流テレビ会議の中で、「かかわり合う力」が育成される場面が何度もあった。本校の児童が自主勉強のノートを紹介すると、相手校の児童が一斉に自分の机から自主勉強のノートを持って来て紹介を始めてくれた。好きな音楽の紹介をすると、相手校から拍手が起こった。互いに情報を伝え合う中で、響き合う体験をたくさん持つことができたことで学習意欲が向上し、教科の目標に児童が生き生きと迫り高めあえたと考え。

課題として、テレビ会議システムの活用は相手があってこそ有効であり、活用する教員・学校を増やすことが必要である。活用が有効な教科・単元を選べば、今回の実践のようにテレビ会議システムを活用することが大きな負担増とはならないので、ハードの運用に関するノウハウを蓄積し、「使ってみよう」と思える実践を公開・報告することを続けたい。